



# 昭和新聞ニュース 第6号

※長曽根銀座河原線は、「昭和新聞」の都市計画道路としての呼び名です。

## 昭和新聞の今後の方向性について話し合いました！！

平成18年3月22日（水）に第2回『長曽根銀座河原線整備検討協議会』（以下、協議会）が開催されました。

協議会に先立ち行われた第1回ワークショップ（1月開催）では、道路整備による『期待していること』『心配していること』を話し合い、第2回ワークショップ（2月開催）では、第1回ワークショップで出された意見をもとに「事業の推進」「道路幅員」「コントロールポイント」について参加者の方から出して頂いた選択肢に対して投票を行いました。

今回の協議会では、これらの意見もとに昭和新聞の今後の方向性について意見が交わされました。



### ☆ これまでのワークショップを踏まえた今後の方向性 ☆

#### ①ワークショップのあり方について

##### ■これまでの協議内容

・昨年度の協議会としての方針は、「来年度の早い時期に、測量図面に道路幅員を提示し、道路の線形や幅員について引き続きワークショップや協議会で検討を行う。」である。

##### ■ワークショップの意見

- 出席者が少ない
  - 第1回ワークショップ：17/34人参加
  - 第2回ワークショップ：16/34人参加
- ワークショップをこのまま進めても、ワークショップで合意を得ることは難しいと考える。
- 各町の代表だけで、これ以上道路幅員やコントロールポイントについて決めることができない。また、責任が持てないという意見がある。
- 補償の問題
  - 道路幅員やコントロールポイントが決まらなければ「地権者」が決まらないという問題があるが、ワークショップでは地権者に説明が必要であるとの意見が多く見られる。

##### ■今後の方向性

- 仮の道路幅員とコントロールポイントを決めたうえで、その地権者を対象とした協議の場（地権者集会）を設ける。
- 協議会は上記協議が整った段階で再開する。

#### ②事業の推進について

##### ■これまでの協議内容

・昨年度の協議会としての方針は、「これまで様々な意見が出てきたが、アンケートでも約7割が「道路を全面的に改良する方がよい」と回答されており、道路を全面的に改良する方向で事業を推進する。」である。

・その中でも、長曽根地区は、課題となっていた。

・今年度出された事業者の方針は、「昨年度の協議結果やアンケート結果及び地元説明会を踏まえて、既に都市計画決定されているルートを基本として本町二丁目交差点から湖岸道路まで事業を推進する方針とする。ただし、幅員、詳細な道路の曲がりなどは今後検討していくことになる。」である。

##### ■ワークショップの意見

- ・全線及び工区分けを含めると、約半数は事業を推進する傾向である。
- ・しかしながら、地権者への保障条件を提示することや旧家などの文化的価値を評価する必要があるといった意見があり、時間的課題があげられている。
- ・長曽根地区は、参加者が少ないことなどから、もっと多くの人数によりさらに議論が必要であると言われている。

##### ■今後の方向性

- 長曽根地区を考慮して、工区分けて事業を推進する。  
工区分ける場合は、
  - ・第1工区：本町二丁目交差点～ポケットパーク西側交差点
  - ・第2工区：ポケットパーク西側交差点～湖岸道路

#### ③道路幅員について

##### ■これまでの協議内容

・昨年度の協議会としての方針は、「今の段階で決定することはできないが、アンケートでも改良する方が良い人の約4割が「16m、14m」と回答されており、14m～16mの間で今後検討していく。」である。

・都市計画決定の道路幅員は、16mである。

##### ■ワークショップの意見

- ・ワークショップ参加者16人中12人が「16m、もしくは、14mの幅員がいい」としている。
- ・植栽は、ある方がいいものの、連続させるのではなく、停車帯、休憩所をうまく組み合わせる案が大半を占めている。
- ・安全性、環境、排水性などの向上が期待されている。

##### ■今後の方向性

- 地権者集会の中で、改めて14m～16mの間で検討して行く。

#### ④コントロールポイントについて

##### ■これまでの協議内容

・昨年度コントロールポイントは確定されてはなかったが、以下の項目が挙げられた。

- 小学校、○井泉、○お寺・お墓、○旧家、○ポケットパーク、○地藏堂、○蔵

##### ■ワークショップの意見

- ・各コントロールポイントに対するワークショップでの意見は、以下の通りである。
  - 学校
    - ・コントロールする・しないの票が、同じ7票ずつであり、完全に意見が分かれている。
  - 井泉
    - ・井泉の蔵は、残すという意見は見られず、事業者に一任するとの意見がある。
    - ・蔵は残すを希望しない、ポケットパークへ移設する意見もある。
  - お寺・お墓(蓮成寺)
    - ・ワークショップで意見を求めた結果、残すかどうかを決められないとの意見もみられるもの、過半数がコントロールするとしている。
  - ポケットパーク
    - ・ポケットパークは、道路用地に用いられたいとの意見が出ており、特に反対の意見は見られない。
  - 旧家
    - ・コントロールポイントとして残してほしいとの意見が出ている。
    - ・文化的価値の調査を行う必要があるのではないかと意見が出ていとも、ポケットパーク側の用地を確保に活用しようとの意見が出ている。
  - 地藏堂
    - ・地藏堂を用途してほしいとの意見が出ている。
  - 蔵
    - ・コントロールする・しないの票が、同じ7票ずつであり、完全に意見が分かれている。

##### ■今後の方向性

- 下記を方針に地権者集会で検討して行く。
  - コントロールする：お寺・お墓(蓮成寺)、旧家
  - コントロールしない：井泉(移設を検討)、ポケットパーク(道路用地として有効活用)、地藏堂(移設を検討)

### ◆ 協議会では、こんな意見が出ました！！

道路幅員を広くするのはよいことだと思います。ただし、これからは補償の話など現実的な問題なので個別で協議していくべきで、ワークショップでは話ができないと思います。

今後は、地権者と協議をして行くべきです。

地元協議は、補償の話と合わせていくのが良いと思います。

カーブはいろいろ調整できますか？  
→基準に沿ったものになります。(ぐにゃぐにゃと曲げられません。)

信号は付きますか？  
→公安委員会にて必要性を検討され設置されます。



## ◆ 第1回ワークショップ ◆

- 開催日時 平成18年2月12日(日) 13:00~15:30 (於 宗安寺)
- 主な内容

### 1. 昨年度の協議内容を復習



「ワークショップ・協議会の位置づけと役割」、「昨年度の整備方針検討の流れ」、「現地調査、保全・改善したい要素、具体的なアイデアの抽出、イメージ検討、アンケート結果、協議会整備方針」などが説明されました。

### 2. 事業者の方針説明

「長曽根地区地元説明会の概要」、「測量調査状況」が報告され、「長曽根銀座河原線整備（事業実施、ルート）に関する事業者の方針」、「長曽根銀座河原線の必要性、交通の考え」などが説明されました。

事業者の方針：昨年度の協議結果や地元説明会を踏まえて、既に都市計画決定されているルートを基本として本町二丁目交差点から湖岸道路まで事業を推進する方針とする。ただし、幅員、詳細な道路の曲がり（コントロールポイント）などは今後検討していく。

### 3. 道路整備による「期待していること(メリット)」、「心配していること(デメリット)」の抽出



事業者の方針などに対して、「期待していること(メリット)」、「心配していること(デメリット)」について話し合われました。

### 4. 発表・質疑応答（検討結果を共有）



班ごとに討議結果を発表しました。

## ◆ 第2回ワークショップ ◆

- 開催日時 平成18年3月12日(日)
- 主な内容 13:00~16:00 (於 宗安寺)

### 1. 前回ワークショップの概要説明

「事業者の方針（事業実施、ルート）」、「期待していること(メリット)」、「心配していること(デメリット)」のまとめ」が説明されました。

### 2. 前回ワークショップにより出された意見から、具体的な事例や展開図面例を説明

道路幅員に関して、安全性、環境、交通量や車の流れ、電線地下埋設、排水に関する対策事例の説明が行われました。

コントロールポイントに関して、残すもの残さないものを具体的に展開した図面の説明が行われました。

### 3. 投票のための選択肢を検討



「①事業の推進の考え方」、「②道路幅員」、「③コントロールポイント」について、選択肢を検討しました。

### 4. 発表



班ごとに討議した選択肢を発表しました。

### 5. 投票



出された選択肢に1人1票の投票を行いました。

### ■ 「①事業の推進の考え方」、「②道路幅員」、「③コントロールポイント」について、参加者の方から出された選択肢と得票数

選 択 肢	得票数
<b>事業の推進の考え方について</b>	
①事業者・協議会の方針に沿って事業を推進する	4
②長曽根地区を考慮して工区を分けて事業を推進する ・長曽根地区を対象とした説明会を実施し、議論する	2
③もう少し時間をかけて引き続き事業実施の可否について議論する ・もう一度地権者を対象としたアンケートを実施する ・地権者に補償条件を示し、検討を進める（ただし、時間はあまりかけない） ・醤油屋・蔵・旧家の文化的価値を評価した上で、検討を進める（ただし、時間はあまりかけない）	4
④事業の中止や見直しなどを検討する ・現状を維持する	3
<b>道路幅員について</b>	
①幅員 16m、植栽帯なし	1
②幅員 16m、植栽帯あり ・連続ではなく、植栽帯、停車帯、休憩施設を交互に設置する。	6
③幅員 14m、植栽帯なし	0
④幅員 14m、植栽帯あり ・停車帯と植栽帯を交互に設置（歩道：2.0m、停車帯・植栽帯：1.5m）	5
⑤幅員 12m	3
⑥もっと狭い道路幅員（12m以下）	1
⑦幅員はワークショップでは決められない	0
<b>コントロールポイントについて</b>	
①小学校のグラウンドをコントロールして、蔵をコントロールしない	1
②小学校のグラウンドと蔵をコントロールする	6
③小学校のグラウンドと蔵をコントロールしない	6
④小学校のグラウンドをコントロールせず、蔵をコントロールする	1
⑤コントロールポイントはワークショップでは決めない	2

発行：滋賀県 湖東地域振興局 建設管理部 道路計画課

〒522-0071 滋賀県彦根市元町4番1号

TEL：0749-23-3511 FAX：0749-23-3531

ホームページアドレス <http://www.pref.shiga.jp/h/h-doboku/2douro.html>

Email：ha3405@pref.shiga.lg.jp

～人・自然・地域との絆で

キラリと輝く湖東をめざして～

(湖東地域振興局のスローガン)